

ともいう(写真-39の1・2・3)。

31 ジムクロ

レール曲器の一種で、レールを屈曲するため用いられる器具。横ジムクロ、縦ジムクロの2種類があるが、いずれもU字わくの両端でレールをは握し、それを支点として中央のらせん軸によりレールの中央を押し屈曲するものである。このほかに主わくの両端を支点とし、中央のラチェットを操作し、リンク機構をスクリューで伸縮し、その押圧でレールを屈曲するものがある(写真-40)。

32 ボルト緊解機

レールの継目板ボルトの緊解に使用される機械で、モータを動力とし、ウォームギヤの減速装置によってボルトを緊解する。

33 橋枕木リベット穿孔(せんこう)器

橋枕木またはそのパッキン板のリベット穴をあける器具で、ギムネの先端スクリューの一部をリベットの頭よりやや大きくしたものである。

34 枕木針金巻器

枕木の割れ止めをするため、枕木端に針金を巻きつける器具で、枕木を一定の台の上に載せ、器具を枕木の周囲にまわしながら針金を巻きつけるもの(写真-41)や、ラチェット歯車を利用するもの(写真-42)などその種類は多い。

35 犬くぎ抜き器

犬くぎを抜く器具で、一般にはパールが用いられるが(1)ガードレールのあるところや、分岐器の一部の箇所などでパールでは犬くぎを抜くことができない場合は、犬くぎを抜く専用のスパイクプーラ(写真-43)が用いられる。これは犬くぎ頭をつかむ爪部と柄とからなっているものと、爪部だけでパールを柄として用いるものがある。いずれも爪部を犬くぎ頭にかけて、レール頭においた受台を支点として柄部またはパールをてことして犬くぎを抜く。(2)その他に手動桿、ラック歯柱、フックからなり、手動桿の先端にフックを取り付け手動桿を上下して犬くぎを抜くものがある(写真-44)。

36 犬くぎ更生器

犬くぎの更生に使用する器具で、犬くぎを側面より左右ねじ桿の作用で圧縮する横動子と、上部から押圧する縦動子とからなり、予熱した犬くぎを横動子の間にはさみ、左右上部より強圧して犬くぎを更生する(写真-45)。

37 込栓製作器

枕木の犬くぎ穴をうめる込栓(こめせん)を造る器具で、鋼鉄管の一端をつぼめて刃をつけ、これに所要の寸法に製作された木片をあて、てこで押し込んで込栓を造る(写真-46)。

38 ステップル製作器

枕木割止めの針金の先端をとめるステップルを造る器具で、水平桿の前後運動により針金をくの字型に曲げると同時に切断して、連続的に造ることができる(写真-47)。

39 枕木きょう搾器

枕木割止めの針金を巻く場合、すでに割裂している枕木に対して効果を十分にするために、枕木を十分にきょう搾して行うことが必要である。この目的に使用する器具で、枕木を入れるわくと一方から押圧するハンドル付のらせん軸からなっている(写真-48)。

40 螺釘(らてい)緊解機

螺釘を締め付けまたは引き抜く機械で、モータを動力とし減速装置により螺釘頭部に嵌合(かんごう)する箱スパナを回転させるもので、回転力をレール頭部をは握するつかみ金具で受け

る(写真-49)。

41 爪型犬くぎ抜き器

パールでは抜けない状態にある犬くぎを抜く器具で、パールを短くした爪部だけのものである。この爪を犬くぎの頭部に打込み他端をスパイクハンマなどでたたいて犬くぎを浮かし上げる(写真-50)。

42 スパイクハンマ

犬くぎを枕木に打込む器具で30kg、37kg、50kg レール用とがあり、頭部重量はともに4kgであるが、形状寸法が違い柄はかしを原則とする。日本工業規格 JIS・E 1501 により制定されている(写真-51)。

43 スレッジハンマ

鍛冶場で火造り作業に使用されるもので、鉄工用向うづちとも呼ばれる。片口と両口の2種類があり、重量も1kg程度のもから11kg程度のものである(写真-52)。

44 トラックジャッキ

主として軌框、分岐器などのこう上に使用するもので、種々の形式のものがあるが、ラック式・スクリュー式・油圧式のものも多く使用されている。荷重はいずれも頭部15t、爪部10t、揚程250mm前後でこう上の場合爪部をレールの底部にかけて行う。このほか一般に広く使用されている小型トラックジャッキにラック式、油圧式、ギヤ式、スクリュー式の4種類があり(写真-53・54の1・2)、ギヤ式のみが急降下式で他は急降下・漸降下兼用である。荷重はいずれも頭部10～6t、爪部5t、揚程は90mmである。

45 ビータ

道床の掘起しおよびつき固めに使用する器具で、金属部の標準重量は4kgで、その形状は一端が撥形(ばちがた)をしたつるはしで、これを打ち下したとき、枕木下端において道床にほぼ直線的に力加えられるよう弧形をなしている。柄はかしを原則としている。日本工業規格 JIS・A8901 で制定されている(写真-55)。

46 砕石用ショベル

線路の斑(むら)直しに豆砕石敷込作業を行う場合、枕木下に豆砕石を敷込むのに用いる特殊なショベルで、その敷込みの方法によって、縦ショベルと横ショベルの2種類がある。縦ショベルは、豆砕石を枕木の長手方向から敷込むもので、長方形の特殊弾性みがき鋼板の一端に柄を取り付けたものであり、横ショベルは枕木の側面方向から敷込むもので、塵取り形の鋼板製ショベルである(写真-56・57)。

47 カッチャー

道床砂利の掘起しに使用される器具である。金属部は厚さ10mmの鋼板製で先端は道床バラストの中に食込みやすいようにとがっており、他端は取付金具で堅固にカシの柄に取付けられている(写真-58)。

48 レールホーク

レールの横移動などに際し、レールを横転するのに使用する器具で、先端はレールの顎(あご)部と、底部をつかむ部分があり、レールを横転転起させる。日本工業規格 JIS・E 1504 で制定されている。この他レールの腹部にそう入されるコの字形の金属にラチェットギヤ付のハンドルをつけたものがあり、レールの転倒が容易で、ハンドルがレールとともに倒れるようなことはない(写真-59)。

49 パール

クロバーとも呼ばれる。犬くぎ抜き、通り直し、レール作業等あらゆる保線作業に使用される器具で、先端爪部は犬くぎの